

【全国・九州大会報告・質疑】

1 全国・九州大会報告

全国大会報告では、開会行事では、本県部会長の高橋祐二校長の功績を称え、表彰を受けられたこと、「おもてなし」をコンセプトに歓迎ムードの中、大会運営がなされていたこと、研究授業についての報告がありました。

九州大会報告では、研究主題を「社会的な見方・考え方を統合的に働かせ、公民的資質の基礎の育成を目指す社会科学習の工夫～様々な思考ツールを活用した探究的な活動を通して～」とし、各分野の研究授業とも思考ツールを活用し、主体的・探究的な学習を展開されていたという報告がありました。

2 九州大会研究発表報告

西米良村立西米良中学校の草刈淳先生から、社会問題学習のひとつのあり方として、「科学的な見方・考え方を獲得」や「社会構造の分析的把握をし、解決策を考える（価値認識の変容）」をねらいに社会的ジレンマ問題学習を展開した授業を展開したことや授業後の生徒の変容について、北九州大会で発表された内容の報告がありました。

報告の中には、「なぜ社会的ジレンマなのか?」「どのような順序で授業構成を行うことが有効なのか?」など草刈先生が研究の際にメインクエストとして考えられていたことなど、多くの実践と分析や考察がありました。さらに、生徒が解答したワークシートが変容していく様子から、その有用性を確認できたとの成果をご報告されました。下記の表は、報告の中で示された社会的ジレンマ問題学習の授業構成モデルです。

段階	問い	学習活動
導入場面	何について学ぶのか。	社会的ジレンマの認識 解決策の考察・構想の見直し
問題把握場面	どうなっているのか。	ジレンマ問題の把握 常識的見方・考え方の獲得
問題分析場面	なぜ、そうなっているのか。	ジレンマ問題の分析 科学的見方・考え方の獲得
暫定的判断場面	どうしたらいいのか。	科学的見方・考え方からの解決策の考察・構想
継続的判断場面	(更に)どうしたらいいのか。	解決策の再考察・再構想

【講義】

「過去の遺産を訪ね、新しきを知る」

宮崎大学教育学部 藤本将人先生

宮崎大学藤本将人先生から、新学習指導要領改訂の背景にあるグローバル化、知識基盤社会、人工知能による第4次産業革命の時代に社会科教師は何を教えていくのか考え、実践していかなければならないなどのご講義がありました。新学習指導要領の実践にあたっては、カリキュラム編成をコンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースに転換させ、学んだ内容をどのように用いるか、その能力を社会生活の中でいかに発揮できるかでカリキュラム編成が必要になってくる。そこで、どのようにして授業をつくっていかなければならないのか、そのヒントはこれまで宮中社の研究蓄積の中にあり、いかに諸先輩から学び、共有していくことが大切だということです。

その後の質疑では、「評価はどうするのか。」や現場の先生方の悩みなど多くの意見や質問が飛びました。

※藤本先生のご厚意により、講義で使用されたスライド資料を県社研ホームページのトップページに掲載しています。

【各地区活動状況報告・研究発表】

1 東臼杵地区

1月24日に行われた第45回宮崎県中学校社会科教育研究大会県北大会のお礼、大会までの経過や大会当日についての報告がありました。模擬授業やパネルディスカッションなど県北大会で初めて取り組んだ内容もあり、大会の成果と反省を次回の西都・児湯大会に向けて引き継いでいきたいとのことです。

2 西臼杵地区

距離的な制限もあり、県北大会に向けた連携が上手くできなかったことの反省を受け、県北地区として東臼杵との協力体制を構築していきたいとのことです。また各先生が行われた授業実践を

中心に報告がありました。各先生の指導案の略案は今年度の研究紀要に掲載してあります。

3 西都・児湯地区

今年度、地区全体で取り組んだ主体的・対話的で深い学びと地区活動の意義をテーマに活動を行ってきたとのこと。まず地区で主体的・対話的で深い学びについての研修内容、続いて三納小中学校仁田脇先生の授業実践を中心に、各先生の授業実践についての報告がありました。研修では「次世代型教育推進センターHP」参考にされたそうです。

4 西諸地区

今年度は、これまで本研究部会が取り組んできた対比関係に基づいた「問い」と「応答」を取り入れた須木中学校竹山先生の授業を中心に実践報告がありました。生徒の興味・関心を高める素材の教材化や生徒の思考過程を意識した「問い」の設定などの工夫を行ったということでした。

5 南那珂地区

地区の現状を分析し、①地区の活動の活性化、②授業力の向上、③県社研の研究を基本方針の定めて行ってきた活動の報告がありました。その中で、飫肥中学校の中武先生の授業実践の紹介がありました。研修会の充実など、次年度の課題もあげられました。

6 宮東地区

生徒が切実になる社会的な対立問題を教材化し、アクティブラーニングを取り入れた授業研究の実践報告がありました。

授業実践では、学習活動の工夫により、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の保証を計画的に授業に組み込んでいったそうです。

7 都北地区

地区全体で東京大学C o R E Fが行っている知識構成型ジグソー法を取り入れた授業研究の報告がありました。報告では実際に中郷中学校の中田先生の実践を、山田中学校の川野先生が模擬授業で紹介してくださいました。授業の雰囲気がよくわかる報告でした。

【講義】

「遺言～君たちはどう生きるか～」

宮崎東中学校校長 高橋祐二先生

今年度、ご退職を迎えられる本研究部会の部会長であられる高橋祐二校長先生の現役最後の講義が、会場に入りきれないくらいの多くの先生方が受講される中で行われました。

講義の冒頭で変動の世の中にあって、「問い」だけが残る時代の中で、「君たちはどう生きるか」の答えを探しつつ、社会科の教師は何をどう教えていけばいいのかというお言葉がありました。

そのような視点で高橋先生の社会科の授業を分析していくと、『「人はどう生きるのか」を考える続ける人間を育てたい。』『社会科について考える続ける人間を育てたい』という思いがあり、常々、思考する社会科授業を意識し、実践されてきたことが表れているものばかりでした。

高橋祐二先生の社会科に対する熱量を感じ、想いを受け継ぐことのできる大変有意義な講義でした。



(文責：宮中社事務局)